

社会系/基礎科目

科目名		サブタイトル	担当教員	配置学年	単位数
経済学 A		経済学の考え方を身につける	高橋 真悟	1 年次前期	2
科目区分	基礎	キーワード	家計（消費者）の行動・企業（生産者）の行動・価格の決まり方		
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力			
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける			
事前に受講するとよい科目		特になし			
講義の目的	経済学の考え方を身につける経済学 A では、経済を構成する家計（消費者）や企業（生産者）といった経済主体の行動、または市場における価格メカニズムなどを扱う「ミクロ経済学」という経済理論の考え方を学んでいきます。				
到達目標	この講義を通じて、日常生活に溢れる経済学的要素を身につけ、賢い消費者として行動できるようになることを到達目標とします。そして企業がどのようなことを考えながら企業活動を行っているかを理解できるようにします。				
講義内容	経済というおカネのイメージが強いと思いますが、経済活動はモノやサービスをつかって売り、それらを消費する一連の活動を指します。この中でおカネは、モノやサービスをつくる「費用」や「価格」において大事な役割をもち、労働者にとっては給料やボーナスという形で「やる気」とも直結しています。経済学 A では、これらの内容を身近な例を踏まえて紹介し、楽しみながら経済学を学んでいきます。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	オリエンテーション	授業概要・運営方法の説明・サunkコストとは（一部）		
	第2講	費用の考え方（1）	サunkコストとは		
	第3講	費用の考え方（2）	機会費用とは		
	第4講	費用の考え方（3）	比較優位とは		
	第5講	経済活動とやる気（1）	インセンティブとは		
	第6講	経済活動とやる気（2）	モラルハザードとは		
	第7講	経済活動とやる気（3）	逆選択とは		
	第8講	市場における価格（1）	価格差別とは		
	第9講	市場における価格（2）	裁定とは		
	第10講	市場における価格（3）	囚人のジレンマとは		
	第11講	経済活動と将来（1）	共有地の悲劇とは		
	第12講	経済活動と将来（2）	割引現在価値とは		
	第13講	経済活動と将来（3）	ネットワーク外部性とは		
	第14講	総復習（1）	キーワードの復習		
第15講	総復習（2）	その他の復習			
指導方法	講義はプリントを中心に行います。また、毎回授業内課題として映像資料を踏まえた問題（選択式と論述式の両方）に取り組んでもらいます。				
事前学習	次回扱うキーワードがどのようなものかをインターネットや書籍で調べ、具体的な例を考えてみてください（1時間程度）。				
事後学習	授業プリントを一通り読み直した後、キーワードの定義を言えるようにしてください。これとは別に、前の回でやった課題（選択式と論述式）を間違えたところを中心に解き直してください（1時間半程度）。				
成績評価方法	本試験（筆記試験）50%、平常点（授業内課題）50%				
テキスト	特になし。毎回プリントを配布します。				
参考書籍	吉本佳生監修『「出社が楽しい経済学」DVDブック（第1～4巻）』日経BP社、2009年。				
特記事項	真面目に受講したい学生の迷惑になるので、私語をしないこと。				

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
経済学B		経済学の考え方を身につける		高橋 真悟	1年次後期	2
科目区分	基礎	キーワード	家計（消費者）の行動・企業（生産者）の行動・価格の決め方			
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前を受講するとよい科目		経済学A				
講義の目的	経済学Bでは、経済学Aに引き続き、経済を構成する家計（消費者）や企業（生産者）の行動、または市場における価格メカニズムなどを扱う経済理論の考え方を学ぶことを目的とします。					
到達目標	この講義を通じて、日常生活に溢れる経済学的要素を身につけると同時に、企業がどのようなことを考えながら企業活動を行っているかを理解できるようにします。これに加えて経済学Bでは、金融危機と人々の経済活動や鉄道に関する経済学が理解できるようになることを到達目標とします。					
講義内容	経済活動はモノやサービスをつくって売り、それらを消費する一連の活動を指します。経済学Bでは、経済学Aに引き続き、楽しみながら経済学を学んでいきます。前半は企業と消費者に関する内容を金融危機（リーマンショック）の内容も入れながら学習していきます。学期の最後の方では、鉄道の経済学を2回に分けて学習します。なお、必要なキーワードは授業で毎回説明するので、経済学Aを受講していなくても問題ありません。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	オリエンテーション	授業概要・運営方法の説明・インセンティブ等（一部）			
	第2講	金融危機と経済主体（1）	インセンティブ、モラルハザード、逆選択とは			
	第3講	金融危機と経済主体（2）	囚人のジレンマとは			
	第4講	企業と消費者（1）	ロックインとは			
	第5講	企業と消費者（2）	コミットメントとは			
	第6講	企業と消費者（3）	ヴェブレン効果とは			
	第7講	企業と消費者（4）	心の会計とは			
	第8講	現代の企業活動（1）	スクリーニングとは			
	第9講	現代の企業活動（2）	オークション（勝者の呪い）とは			
	第10講	現代の企業活動（3）	レントシーキングとは			
	第11講	現代の企業活動（4）	規模の経済性とは			
	第12講	鉄道の経済学（1）	価格差別・機会費用とは			
	第13講	鉄道の経済学（2）	本源的需要・派生需要とは			
	第14講	総復習（1）	キーワードの復習			
第15講	総復習（2）	その他の復習				
指導方法	講義はプリントを中心に行います。また、毎回授業内課題として映像資料を踏まえた問題（選択式と論述式の両方）に取り組んでもらいます。					
事前学習	次回扱うキーワードがどのようなものかをインターネットや書籍で調べ、具体的な例を考えてみてください（1時間程度）。					
事後学習	授業プリントを一通り読み直した後、キーワードの定義を言えるようにしてください。これとは別に、前の回でやった課題（選択式と論述式）を間違えたところを中心に解き直してください（1時間半程度）。					
成績評価方法	本試験（筆記試験）50%、平常点（授業内課題）50%					
テキスト	特になし。毎回プリントを配布します。					
参考書籍	吉本佳生・NHK「出社が楽しい経済学」制作班編『出社が楽しい経済学2』NHK出版、2009年。					
特記事項	真面目に受講したい学生の迷惑になるので、私語をしないこと。					

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
経営学 A		経営と経営学の基礎知識		寺本 直城	1 年次前期	2
科目区分	基礎	キーワード	経営学・企業・経営管理			
ディプロマポリシーとの対応	1. 時代や社会の要請に対応できる能力					
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける					
事前に受講するとよい科目	特になし					
講義の目的	経営学 A・B は、経営学の初学者が、経営学の基礎知識を習得することを目的としている。その中でも、経営学 A では、講義およびグループワーク等を通して、企業論や経営管理論、経営組織論そして経営戦略論などの経営学の根幹をなす分野についての基礎知識を習得することを目的とする。					
到達目標	①経営学の基礎知識を身に付け、②経営学の中でも興味がある分野を発見し、③今後の学生生活で自分が専門としたい分野を見極めたり、進路決定の参考にできるようになる					
講義内容	経営学という、あたかも経営学という一つの分野があるように考えられるが、実際には、経営学は経営管理論や経営戦略論・経営組織論・マーケティング論、企業論など様々な分野から構成される裾野の広い学問である。また、経営学と聞くと、企業の学問と考えられることが多いが、企業とは経営体の 1 種に過ぎず、世間を動かすほとんどの経営体（組織）を対象としているという意味でも裾野が広い。本講義では、非常に多岐にわたる経営学の様々な分野を一講義一テーマのオムニバス形式で行い、非常に多岐にわたる経営学の分野を浅く広く俯瞰する。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第 1 講	イントロダクション	経営学 A の説明			
	第 2 講	経営と経営学	「経営」とは何か？「経営学」とは何か？			
	第 3 講	企業論の基礎	企業とは何か。我が国における企業の種類			
	第 4 講	企業論の基礎	株式会社の歴史と仕組み			
	第 5 講	経営哲学の基礎	企業はなんのために経営されるのか？			
	第 6 講	企業不祥事	企業が不祥事を起こすとどうなるのか			
	第 7 講	経営管理論の基礎	経営学はいかにして生まれたのか			
	第 8 講	経営管理論の基礎	科学的管理論と Ford 社			
	第 9 講	マーケティング論の基礎	GM 社はいかにして Ford 社に勝ったのか			
	第 10 講	生産管理論の基礎	トヨタ生産方式に学ぶ生産管理			
	第 11 講	科学的管理から生産管理	第 7～9 講のまとめ			
	第 12 講	経営戦略の基礎	企業の基本的な経営戦略			
	第 13 講	経営組織の基礎	組織作りの大原則			
	第 14 講	戦略が先か、組織が先か	経営戦略論と経営組織論の関係			
第 15 講	経営学 A のまとめ	経営学 A の講義の総括				
指導方法	授業は、基本的に板書やパワーポイントを用いた講義形式で行う。また、授業中にアクティブ・ラーニングの一環として、ケーススタディや映像教材を用いて、受講生同士または教員を含めてグループワークを行う場合がある。授業には、必ずノートを持参し、講義内容やディスカッション内容をメモすること。					
事前学習	毎回講義終了時に次回の講義につながるクイズを出題するので、それについて考えたり、調べたりしておくこと。具体的には、インターネットや書籍を用いて 1 時間半程度を目安に予習しておくこと					
事後学習	講義ノートをしっかりまとめるという作業を行うこと。ノートをまとめる作業により講義を深く理解することができるようになる。具体的には授業時間と同等の 1 時間半程度を目安に行うこと					
成績評価方法	本試験（筆記試験）70%、平常点（リアクションペーパーの質）30%					
テキスト	テキストは用いない					
参考書籍	講義内に紹介する場合がある					
特記事項	経営学 A・B は 1 セットとして履修することを強く推奨する。					

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
経営学B		企業の成長・国際化，そして最近の動向		寺本 直城	1年次後期	2
科目区分	基礎	キーワード	経営学・企業・経営管理			
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目		経営学A				
講義の目的	経営学A・Bは，経営学の初学者が，経営学の基礎知識を習得することを目的としている．その中でも，経営学Bでは，講義およびグループワーク等を通して，コーポレートガバナンスやCSR，国際経営などの経営の実質的な分野についての基礎知識を習得することを目的とする．					
到達目標	①経営学の基礎知識を身に付け，②経営学の中でも興味がある分野を発見し，③今後の学生生活で自分が専門としたい分野を見極めたり，進路決定の参考にできるようになる					
講義内容	の授業では，経営学の主たる対象となる「企業」が持つ多様な側面として，企業の成長・国際化，そして最近の動向の問題を様々な視点から議論を行う．企業といっても，中小企業から大企業，ベンチャー企業，多国籍企業など様々な形態があり，さらにその目的なども多様である．そういった企業の多様な側面について，その動きの実質的な動きに着目する．					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	イントロダクション	経営学Bの説明			
	第2講	会社の所有と支配	会社を所有することと支配することの意味の違い			
	第3講	日本企業の所有と支配	日本企業は誰が所有・支配してきたか			
	第4講	米国企業の所有と支配	米国企業は誰が所有・支配してきたか			
	第5講	企業所有と支配の日米比較	所有と支配の形態の違いによる日米の経営比較			
	第6講	日本的経営論	日本ならではの経営手法			
	第7講	中小企業論	日本の中小企業の基礎知識			
	第8講	ベンチャービジネス論	大企業に挑む企業の特徴と方法			
	第9講	イノベーション論	社会・企業を支えるイノベーション			
	第10講	国際経営論	国際時代の経営学			
	第11講	CSR論	企業の社会的責任			
	第12講	NPO論	利益を求めない企業			
	第13講	ソーシャルビジネス論	社会問題を解決する企業			
	第14講	BOPビジネス	世界の貧困層を助けるビジネス			
第15講	経営学Bのまとめ	経営学Bの講義の総括				
指導方法	授業は，基本的に板書やパワーポイントを用いた講義形式で行う．授業中にアクティブ・ラーニングの一環を用いて，受講生同士または教員を含めてグループワークを行う場合がある．授業には，必ずノートを持参し，講義内容やディスカッション内容をメモすること．					
事前学習	毎回講義終了時に次回の講義につながるクイズを出題するので，それについて考えたり，調べたりしてくること．具体的には，インターネットや書籍を用いて1時間半程度を目安に予習してくること					
事後学習	講義ノートをしっかりまとめるという作業を行うこと．ノートをまとめる作業により講義を深く理解することができるようになる．具体的には授業時間と同等の1時間半程度を目安に行うこと					
成績評価方法	本試験（筆記試験）70%，平常点（リアクションペーパーの質）30%					
テキスト	テキストは用いない．					
参考書籍						
特記事項	経営学A・Bは1セットとして履修することを強く推奨する．					

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
政治経済		政治と経済の仕組みを知る		福山 圭介	1 年次前期	2
科目区分	基礎	キーワード	民主主義、憲法、階級、資本主義、社会科学			
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目		特になし				
講義の目的	皆さんが社会に出て働くようになると、仕事や家計を通じて否応なく政治や経済に関心をもつようになるはずですが、しかし日々のニュースは断片的な情報しか与えてくれません。本講義では、政治と経済についての古典的かつ根本的な考え方を学ぶことによって、そうした情報の意味を将来に渡って自分の頭で考えられるような「概念装置」を身につけます。					
到達目標	政治経済分野においてニュース時事能力検定準2級レベルの知識習得を目標としますが、単なる知識の暗記ではなく、社会科学として背後にある論理の探求を目指します。					
講義内容	なぜ民主主義という政治体制が生まれたのか？民主主義が独裁者を生むのか？政権政党は誰によって選ばれているのか？民主主義と資本主義はどんな関係にあるのか？政府の経済政策は誰のために行われているのか？日本は階級社会なのか？以上のような問いから出発します。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	オリエンテーション	授業概要や運営方法等の説明			
	第2講	民主主義と三権分立	ホブズ・ロック・ルソーなどの啓蒙思想の概要			
	第3講	世界の政治制度	アメリカ・イギリス・ドイツ・韓国・中国などの政治体制			
	第4講	大日本帝国憲法	大日本帝国憲法の概要・統帥権干犯問題など			
	第5講	日本国憲法	日本国憲法の概要・憲法9条をめぐる戦後史			
	第6講	戦後日本の政治史	戦後の首相と政策・55年体制とその崩壊など			
	第7講	国際政治経済	国際連盟と国際連合・国際貿易の枠組みなど			
	第8講	経済体制と経済学説	アダム・スミス以降の経済史と学説史の概要			
	第9講	戦後日本の経済史(1)	終戦～高度経済成長			
	第10講	戦後日本の経済史(2)	オイルショック～バブル			
	第11講	戦後日本の経済史(3)	失われた20年			
	第12講	金融政策と財政政策	日銀と財務省の政策・アベノミクスとは何だったか			
	第13講	地方自治と地方経済	原発問題を例に地方政治と地方経済を考える			
	第14講	政治経済基礎理論	ウェーバーとマルクス：上部構造と下部構造			
第15講	まとめと演習	これまでの復習演習				
指導方法	“スライドとプリントを使った講義65分+映像25分”が基本形式です。					
事前学習	事前にプリントをアップロードしますので、授業前に目を通しておいて下さい（目安60分程度）。					
事後学習	授業内容の理解度確認テストを毎回の課題とします。しっかり復習して課題を解いてください（復習と解答で90分程度）					
成績評価方法	本試験60%、授業課題40%					
テキスト	ありません。授業内でプリントを配布します。					
参考書籍	授業内で指示します。					
特記事項	本講義はキャリア科目として「ニュース時事能力検定」3級以上の受験を推奨しています。					

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
現代社会論		グローバル社会の諸問題		福山 圭介	1 年次後期	2
科目区分	基礎	キーワード	日米同盟、イスラム、移民問題、ナショナリズム、グローバリゼーション			
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前を受講するとよい科目		政治経済				
講義の目的	沖縄の米軍基地、大国化する中国、変貌する日米同盟、混迷を深める中東情勢、欧州の移民問題など、今日のグローバルな社会にあって私たち一人一人にとっていつでも身近な問題となりうる事柄を、どのように理解すれば良いのか？ネットやテレビのニュースの聞きかじりに満足せず、より深く、社会科学として理解することを学びます。					
到達目標	ニュース時事能力検定準2級以上ないしそれ相当の知識を身につけ、さらには単なる知識に留まらない現代社会への永続的な興味・関心を各自が持てるような授業にします。					
講義内容	なぜ日本に米軍基地があるのか？中国は尖閣諸島に攻めてくるのか？イスラム国はなぜ生まれたのか？なぜ欧州でテロが頻発しているのか？トランプはなぜ支持されたのか？グローバリゼーションって結局何のことなのか？こうした疑問から出発します。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	オリエンテーション	授業概要や運営方法等の説明			
	第2講	在日米軍と日米同盟	在日米軍および日米同盟の概要			
	第3講	沖縄基地問題	沖縄経済と米軍基地、普天間基地移設問題など			
	第4講	米軍再編と日米交渉	日本の対米外交はどのように行われているのか？			
	第5講	米軍と人民解放軍	もし米中紛争が起こったらどうなる？			
	第6講	海洋をめぐる問題	国際海洋法条約と尖閣諸島・南沙諸島			
	第7講	イスラムとは何か	イスラム教の教義・社会習慣など			
	第8講	イスラム近現代史	中東の近代史とアラブの春			
	第9講	欧州の移民問題(1)	フランスの同時多発テロ事件とイスラム系移民問題			
	第10講	映像授業	欧州の移民問題に関する映像作品を鑑賞します			
	第11講	欧州の移民問題(2)	フランスの郊外暴動			
	第12講	現代のナショナリズム	EUとブレグジット問題			
	第13講	植民地主義の歴史	イギリスの三角貿易とフランスのアルジェリア支配を事例に			
	第14講	グローバリゼーション	国家 vs 企業 ～新たな植民地主義か？			
第15講	まとめと演習	これまでの復習演習				
指導方法	“スライドとプリントを使った講義 65 分+映像 25 分” が基本形式です。					
事前学習	事前にプリントをアップロードしますので、授業前に目を通しておいてください。（目安 60 分程度）					
事後学習	授業内容の理解度確認テストを毎回の課題とします。しっかり復習して課題を解いてください。（復習と解答合わせて 90 分程度）					
成績評価方法	本試験 60%、授業課題 40%					
テキスト	ありません。授業内でプリントを配布します。					
参考書籍	授業内で指示します。					
特記事項	本講義はキャリア科目として「ニュース時事能力検定」3 級以上の受験を推奨しています。					

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
法学 A		法の概念を学ぼう		井上 貴也	1 年次前期	2
科目区分	基礎	キーワード	社会規範、法、日本国憲法、法律、裁判制度、法の解釈			
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前を受講するとよい科目		特になし				
講義の目的	法律というと難しいとか専門家のもんといった認識を持ちがちですが、私たちが日常を無事に過ごせるのも法律によるものです。社会の複雑多様化に対応して、法律の重要性は一層増しつつあります。本講義では、法の概観することにより、法の基本理念を把握することを目的として講義を行います。					
到達目標	本講義では、法的なものの考え方、いわゆる「法的思考力(リーガルマインド)」を身につけることを到達目標として講義を行います。					
講義内容	本講義では、法の概念、特質、他の規範との関係、体系、解釈などの法の基本的理念や知識を説明します。併せて、身近にある法的なトラブルの実例、新聞報道による実際の事件を紹介しながら法の世界を探検します。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	法とはなにか	規範としての法の必要性、法が主要な規範たる理由			
	第2講	法の特質	行為規範、社会(他律)規範、強要規範としての法の特質			
	第3講	法と他の社会規範との関係	法と道徳、慣習、宗教、戒律等の規範との違い			
	第4講	法の歴史	法の成り立ちと歴史			
	第5講	法の法源(1)	法源の意義と種類、制定法・判例法主義の国			
	第6講	法の法源(2)	制定法、判例法、慣習法、条理とその役割			
	第7講	法の体系	憲法、法律、命令など(政令、省令、条例)			
	第8講	法の分類	公法と私法、実体法と手続法、普通法(一般法)と特別法			
	第9講	法適用の原則	所管事項の原則、後法優先の原則、特別法優先の原則			
	第10講	法の解釈(1)	法の解釈の必要性和種類			
	第11講	法の解釈(2)	有権解釈(立法解釈、行政解釈、司法解釈)、学理解釈			
	第12講	法の解釈(3)	文理解釈、論理解釈(拡張解釈、縮小解釈、類推解釈など)			
	第13講	法と権利	法における権利、権利の行使と濫用			
	第14講	法と義務	法における義務、権利・義務の主体と客体			
第15講	まとめ	新聞記事やニュースを素材に考えよう				
指導方法	授業は、講義形式で行います。なるべく皆さんの身近な問題、話題となった事件等を取り入れ、具体的に説明を行いません。講義中の事柄に限らず、日ごろ疑問に感じていること法律問題等ありましたら、どんどん質問して、学習に役立てるようにして下さい。					
事前学習	本講義で学ぶ内容は、法律全般に渡るため、下記の参考文献等を参考にして、講義スケジュールの各項目について、レジュメを事前に予習して下さい。約1時間を目安とします。					
事後学習	授業で説明したキーワードや概念を整理しておいてください。具体的指示は、当日の授業でします。事後学習に要する時間は、目安約1時間です。					
成績評価方法	本試験(筆記試験)70%、平常点(授業内課題)30%の結果を総合して評価します。					
テキスト	特定のテキストは使用しません。毎回、レジュメを用意します。					
参考書籍	伊藤正巳・加藤一郎編「現代法学入門〔第4版〕」(有斐閣)1200円(+税)、「ポケット六法(令和5年度版)」(有斐閣)2000円(+税)。授業で紹介します。					
特記事項						

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
法学B		身近な法律を学ぼう		井上 貴也	1年次後期	2
科目区分	基礎	キーワード	日本国憲法、民法、刑法、商法、訴訟法、その他の法律			
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目		法学A				
講義の目的	法律というと難しいとか専門家のもんといった認識を持ちがちですが、私たちが日常を無事に過ごせるのも法律によるものです。社会の複雑多様化に対応して、法律の重要性は一層増しつつあります。本講義では、わが国の法律制度を概観し、社会と法の関わりを学び、社会を法的側面から理解することを目的とします。					
到達目標	本講義では、憲法を始めとするわが国の主要な法律の概要、基本理念および各法規間関係を理解することにより、実際社会の理解や日常生活上のトラブルに関して、法的な解決能力を身につけることを到達目標として講義を行います。					
講義内容	本講義では、憲法を始めとするわが国の主要な法律をとりあげ、その概要を学ぶとともに、各法律における争点、改正のポイント、裁判例についてもとりあげます。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	国家と法	国家の統治権、統治作用に関する根本原則を規律する法			
	第2講	財産と法	財産関係を規律する法の概要			
	第3講	家族と法	家族関係を規律する法の概			
	第4講	企業と法	会社制度の概要、会社の種類			
	第5講	商取引と法	商取引の基本ルール			
	第6講	犯罪・刑罰と法	犯罪と刑罰の種類と内容			
	第7講	訴訟と法	裁判制度と訴訟手続			
	第8講	労働と法	使用者と労働者との関係を規律			
	第9講	情報と法	情報化社会における情報の保護			
	第10講	教育と法	教育制度の法的地位とその理念			
	第11講	医療と法	医療行為に対する法的規制			
	第12講	社会福祉と法	憲法第25条と法			
	第13講	環境と法	環境破壊に対する法的規制			
	第14講	国際社会と法	国際平和の維持と法的規制			
第15講	まとめ	新聞記事やニュースを素材に考えよう				
指導方法	授業は、講義形式で行います。なるべく皆さんの身近な問題、話題となった事件等を取り入れ、具体的に説明を行ないます。講義中の事柄に限らず、日ごろ疑問に感じていること法律問題等ありましたら、どんどん質問して、学習に役立てるようにして下さい。					
事前学習	本講義で学ぶ内容は、法律全般に亘るため、下記の参考文献等を参考にして、講義スケジュールの各項目について、レジュメを事前に予習して下さい。約1時間を目安とします。					
事後学習	授業で説明したキーワードや概念を整理しておいてください。具体的指示は、当日の授業でします。事後学習に要する時間は、目安約1時間です。					
成績評価方法	本試験(筆記試験)70%、平常点(授業内課題)30%の結果を総合して評価します。					
テキスト	特定のテキストは使用しません。毎回、レジュメを用意します。					
参考書籍	伊藤正巳・加藤一郎編「現代法学入門〔第4版〕」(有斐閣)1200円(+税)、「ポケット六法(令和5年度版)」(有斐閣)2000円(+税)。授業で紹介します。					
特記事項						